

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301090		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホーム安楽樹 A棟		
所在地	名古屋市守山区笹ヶ根一丁目101番地		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jl_gvosvoCd=2371301090-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社内理念の「やすらぎ」をモットーに、利用者様にごく普通の生活をごく普通に過ごして頂ける事を心がけている。名古屋市内の比較的便利な住宅街にありながら、緑豊かな自然に囲まれ、敷地内にながらにして、春は桜、荷堀、秋は紅葉、柿やミカンの収穫と季節の変化を楽しむことが出来る。また敷地内にある畑で野菜や花を育て、育てた野菜で料理をし、育てた花で部屋を飾り、自然の豊かさを直接肌で感じながら、ごく普通の生活をごく普通に過ごして頂く。また系列の施設との合同イベントなどで利用者様同士の交流が盛んに行われている。恒例行事となった温泉旅行や運動会では利用者様全員参加をモットーとし、通常の介護の非常識を常識とする事で、利用者様もスタッフも喜びや自信につなげている。平成29年2月より認知症カフェをオープンさせて頂き、地域の方々の集える場所としてお役に立てるように考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、少人数の職員体制で全員が常勤職員のチームで利用者の支援が行われている。法人全体で職員研修が行われており、職員一人ひとりが介護職としての自覚を持ち、資質向上の取り組みが行われている。地域の方との交流や市や区の行政窓口との情報交換は、法人全体で取り組みが行われており、様々な研修会や講習会への参加や区の福祉まつりへの参加、協力が行われている。協力医療機関との柔軟な協力関係が築かれており、協力医が日常的にホームに訪問していることで、利用者一人ひとりの健康状態の確認と医療面での支援が行われている。災害対策についても、地域の方との協力関係をつくる取り組みが行われている。また、関連事業所との合同で年1回の外泊旅行の取り組みが行われており、季節の料理や温泉を楽しむ等、利用者の思い出もつなげられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に浸透するよう、リビングと玄関の誰もが見やすい場所に掲示し、毎月のカンファレンスごとに唱和・確認を行い、理念に即した介護に努めている。	法人の基本理念を職員による支援の基本としており、毎月のカンファレンスの際には、職員間で理念を唱和し、利用者への支援につなげる取り組みが行われている。また、ホーム内への掲示が行われており、日常的な意識にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊り等地域の方との交流を行っている。また近所の保育園とも交流しており、顔なじみの関係になっている。また認知症カフェをオープンし、地域の方も訪問して下さる。	地域の方とは、関連事業所とも連携しながら交流が行われており、地域の行事に参加する取り組みが行われている。また、昨年より、認知症カフェの取り組みが行われており、多くの方の参加が得られている。	地域住民が増えたこともあり、ホームに近隣には新たに中学校が開校している。新たな住民との交流が増える等、ホームの継続した交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの専門性を活かし、いつでも相談に応じられる体制を作っている。民生委員の方が集まって施設の見学にも来て頂いている。カフェ開催時にも支援について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告だけでなく、委員の方からの意見、要望等を聞きサービス向上に活かしている。	会議については、関連事業所と合同で開催しており、区内の複数の地域包括支援センター職員の参加が得られる等、ホームを知ってもらう取り組みが行われている。また、複数の地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換にもつながっている。	会議の際には、関連事業所の利用者家族と合わせて案内を行っている。ホームからも家族の参加が続くように、継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や区役所との連携で、指導やアドバイスを受けるなどお世話になっている。また守山区社会福祉協議会主催の福祉祭りには毎年参加している。	市の担当部署とは法人全体で情報交換等が行われており、研修会や講習会等への参加等も含め、協力関係をつくる取り組みが行われている。また、区の福祉まつりへの参加が行われたり、作品展への出品等の協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人に拘束本来の意味と目的を考える機会をカンファレンスや当社独自の研修で取り上げ、各職員に当社理念に基づいた介護には拘束は不必要であると理解してもらっている。	身体拘束を行わない方針のもと、職員間で利用者への見守りが行われている。法人全体で研修会の取り組みが行われており、職員の振り返りにつなげている。また、カンファレンス等を通じた注意喚起等も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等で議題にあげ、確認し合っている。また入浴時に身体の確認をしている。また言葉や無視による虐待が無いように特に注意を払い、目に見えない行為の防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人や身元引受人の方の協力を頂きながら、カンファレンスや社内独自の研修時に学ぶ機会を設け、守秘義務に留意し理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人の生活状況やご家族の不安・疑問点をお聞きしたうえで、理解して頂けるように説明する事を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所便りを年5回程ご家族へ送り、近況をお知らせしたり、ご家族が来訪された際に近況をお伝えし、ご家族の意向を聴き運営に反映するように努めている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、法人の幹部職員も対応する体制がつけられている。また、年4回のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等を通じて職員の意見等を聞き、可能な事は取り入れ、介護を行いやすい環境作りに努め、反映させるようにしている。そのためにホーム長室を大きく設け、職員にとって開かれた環境を心がけている。	毎月の職員会議が行われており、会議の際には、法人代表者や法人幹部職員も出席することで、職員からも意見等を運営に反映する取り組みが行われている。また、少人数の全員が常勤職員であることで、職員一人ひとりが責任を持つ体制がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内ライセンス制度を設け職員のやりがいにつながるように研修を行っている。ライセンス合格者も徐々に増え、合格者が未受験者に対し研修を行うようになってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇の研修も含まれる、リーダー研修の参加者を増やし、その参加職員が一層研鑽できるような社内研修を充実させる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市や守山区の各連絡協議会等に参加をしており、情報収集や研修会等に参加し、サービスの質の向上が図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所時にご本人と話す機会を少しでも多く設け、要望や意見を良く聴き安心して信頼関係を築いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも話す機会をなるべく多く持ち、要望や意見が出やすいような雰囲気を作り、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を聞いたり、ご本人の状況を出来るだけ詳しく把握し、適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を行うだけの関係でなく、自分も共同生活の一員としての立場に立ち利用者様に寄り添った介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供できるように努めている。又、クリスマス会等のイベントにご家族も参加して頂けるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際に利用者様のなじみの場所を通して当時の話をして頂いたりして楽しんで頂いている。また、知人に訪問して頂いたり、電話や手紙で関係が途切れないように支援している。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する機会が得られており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との墓参りや法事等を通じた外出や、時には自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力ホールで過ごせるよう、声掛けや企画をし孤立しないような働きかけをしたり、職員が間に入り利用者様同士が会話を通じて良い関係が傷くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても入所先が決まるまで相談に応じたり心当たりのある施設の紹介援助を行いいつでも相談に応じる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で個々の希望意向を把握しコミュニケーションが困難な利用者さまに於いては家族からの聞き取りアセスメントを活用し把握に努めている。	全職員が全利用者に関する状況報告を書面で報告しており、その情報も参考にしながらカンファレンスを行っている。利用者一人ひとりの把握と意向等の反映につなげている。また、アセスメントの際には、家族にも協力をお願いする取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で、これまでの生活歴等をなるべく詳しく聴きとりをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で各利用者さんの現状について話しあったり、申し送りノートを活用したりとスタッフ内での連絡・報告を徹底し、利用者の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に使う様式を主任会議等で作成し、よりスタッフの意見が多く取り入れられるようにしている。カンファレンスでサービス計画の見直し、作成を行い、又、御本人の思いを中心に家族の意見等聞き、本人の現状にあった計画作成に努めている。	介護計画を6か月での見直しが行われており、状態変化に合わせた随時の見直しも行われている。毎月のカンファレンスを通じたモニタリングを実施しており、状態変化等の把握が行われている。また、日常の介護記録にも介護計画に関するチェックが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭や申し送りノート、介護記録等にて情報を共有して常に状態を把握できるようにし、介護計画の改善目標に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化や現状に添った介護が出来るように職員間で共有し、特定のサービスにとらわれないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年より認知症カフェを開催し、地域の方やネット等で調べて来られる方が増えてきた。より一層地域と利用者様との交流が図れるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは入所時に主治医を当ホーム契約の医師に代わって頂くようお願いしています。月2度の往診、緊急時の往診、救急対応等も受けている。	協力医が日常的にホームに訪問していることで、医療面での柔軟な支援やホームからの受診支援等の対応が行われている。合わせて、協力医療機関の訪問看護による支援が行われていることで、利用者の状態変化に合わせた支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護、緊急時のサポート、看護指導等を受け、利用者様が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の協力医療機関を持ち、安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わしている。また入院時にこまめに足を運ぶことにより、病院関係者から情報もいただき、施設での生活が出来る状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為に入所時に家族・後見人の意見をいただいている。又、ホームで出来る事・出来ない事を十分に説明し理解していただいている。状態に変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、医療機関との連携の下、援助に取り組んでいる。	重度の方もホームでの生活を継続することができるよう、医療面での柔軟な支援を行いながら、利用者の中にはホームで最期を迎える方もいる。家族との話し合いを行いながら、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変又は災害時を想定し救急救命訓練や応急手事故発生への対応訓練等を消防機関へ依頼することを定期的に計画し実践力を身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災地震に備える為に自主防火防災計画書を作成し町内会組織にも組み込んでいただけるように申し入れを行っている。又、職員全員を対象に施設独自で炊き出し・防火防災訓練等も行っている。	年2回の合同の避難訓練の他、ホーム単独で毎月の訓練を実施しており、利用者も参加した取り組みが行われている。関連事業所とも連携しながら夜間に訓練を実施したり、通報装置の確認等も行われている。また、ホーム内に備蓄品の確保が行われている。	水害の際には、地域の方の自動車を高台にあるホームに預る等、地域の方との協力関係が行われている。ホームからの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や研修を通じ、徐々に職員も理解してくれて、尊厳を尊重する言葉かけをするようになった。	基本理念に利用者への尊重を掲げてあり、職員間で理念を唱和することで、振り返りにつなげている。また、職員研修の際には、利用者の言葉を聴くという姿勢を伝えながら、職員の利用者への対応につなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の想い・希望を出していただける雰囲気作りに努め、声掛けする中でもアンテナを広げ自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がどのように生活したいかを介護の中心に置き、介護者側の都合を優先させないようにして利用者様のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時だけでは無く、普段から利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様お一人お一人が出来る事を把握し、食事の準備、配膳、後片付け等を分担して行って頂いている。	職員間で利用者の好みや嗜好等にも配慮しながらメニューを考えている。利用者も、買い物、調理、片付け等、できることに参加している。おやつ作りや季節等に合わせた食事作りも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分摂取量に気を付けた支援を一日の流れの中で習慣として組み込み、その都度気配りして一人ひとりへの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々の状態・自立度に合わせたケアをしていただく又は援助している。状態に応じて契約訪問歯科医療機関に出張診療、口腔ケア指導をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターン把握に努め、時間や様子を見てトイレ誘導をし、出来るだけ自立した排泄が出来るように支援している。	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で情報を共有しながらトイレでの排泄につなげたり、徐々にオムツ類を減らす等の取り組みが行われている。職員一人ひとりが適切な排泄支援を行うことができるように、独自の資格制度をつくる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、ラジオ体操や散歩等出来るだけ体を動かしていただけるよう働きかけ下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックや浴室内外の温度差や水分補給に注意を払い、ご本人が安心して入浴して頂けるように支援している。またなるべく希望に沿った入浴時間帯に入浴して頂けるよう、各職員も努めている。	毎日の入浴に準備が行われており、利用者の状況等にも合わせた、入浴の回数や時間等の対応が行われている。重度の方に合わせた職員複数での介助や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯も行われている。また、旅行を通じた温泉入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は散歩や日光浴等外気に触れて頂くように支援している。併せて多くの楽しみごとを増やし、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方されている薬の目的・副作用を充分理解し、確実な服薬を援助し症状の変化に注意し健康維持に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自立度に合わせた役割を持っていただき、又、各々の趣味や楽しみを把握し張り合いのある日常生活が送れるよう援助している。また年1回の全施設合同での温泉一泊旅行も行って、利用者様の楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材や日用品の買い物には同行して頂いている。法人他施設との交流も頻繁でドライブや外食等も合同で行っている。また地域行事へも参加して頂いたり、散歩等を意識的に取り組み、外出支援を行っている。	日常的には、利用者が随時、外出できるように職員間で連携した取り組みが行われている。年間を通じて、様々な場所への外出が行われており、季節に合わせた外出や外食の取り組みが行われている。また、年1回の一泊旅行の取り組みも継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的には金銭の個人所持は控えていただいている。少額の所持でご本人の安心につながると云う事であればご家族様と相談の上所持していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切なお友達への手紙・電話のやり取りについては相手の方の了承を得て援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、ホールに利用者様が描いたり作成した作品や外出時等の写真を飾ったり、あまり華美にならずに落ち着いた雰囲気でも過ごして頂けるような配慮をしている。	ホーム内は、利用者が気軽に外に出ることができるよう開放的な雰囲気づくりが行われている。リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品が飾られている。また、区の福祉まつりや一泊旅行の際の写真も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合った利用者様同士で会話をしたり、好きな事をして過ごして頂いている。共用空間には一人になれる場所が無いため、それぞれの居室を利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具小物を持ち込む事で安心し落ち着いた生活が出来るを家族にも伝え、入所時に持ち込んでいただくことにより、混乱を減らし、居心地良い空間作りに努めている。	居室には、利用者の使い慣れた家具類の持ち込みが行われており、自宅からの生活の延長になるような居室づくりが行われている。また、利用者の中には、布団を敷いて生活している方もあり、利用者の身体状態等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に合わせ使いやすい工夫をし安全で自立した生活が可能な空間作りに努めている。		